〔林委員修正意見〕

１.「言語・文学」分野の定義

［...］

言語は音声あるいは身体動作を媒体とした記号大系である。それは思考の基盤であると同時に、人と人との間でおこなわれる相互行為としてのコミュニケーションの重要な部分を占める。思考もコミュニケーションも、言語のみでは成立せず、言語以外のさまざまな知識や知覚に支えられてはじめて機能するが、知識は個人の体験に依存し、知覚は個々の発話の場面に依存する。そのため、人により状況により思考やコミュニケーションの内容に変動が生じることは避けられない。しかし、文字の誕生は、このような人や状況による変動を抑制し、時と場所と個人を越えて、言語活動の成果を伝えることを可能にした。［これによって...］

2.1.1 「言語」の特性

人類は、種の特性として言語能力を普遍的に持つと同時に、その能力は、特定の言語体系（ひとつとは限らない）を獲得し使用することにより実現される。従って、世界で話される言語体系は実に多様であり、同じ言語体系の中にも、音声、語彙、文法、意味など全ての面で著しいバリエーションがある。その一方で、人類は、集団や社会の枠を超えた価値や情報を共有するため、ピジン・クレオールやリンガ・フランカをはじめとして、共通言語を生み出す努力もおこなってきた。言語に対する素朴な思い込みや政治的威信などに依るのではなく、言語の特性を正しく理解した上で、人間精神を涵養し、より精緻で洗練された文化を生み出すことを目的として共通言語体系を確立し、それを普及させることは、「言語・文学分野」教育の根幹のひとつである。

3.1.2　獲得すべき基本的な知識と理解

[...]

○「言語」に関するさまざまの見方についての基本的知識と理解

言語分野には多様なアプローチがあるが、身につけることを目指すべき基本的な知識と理解は共通である。

(1) 言語の構造性に関する理解：産出される言語はすべて、音声言語か手話言語かを問わず、単なる線状的な要素の並びではなく、異なる階層を持つ抽象的で複雑な構造を持っている。しかも、こうした構造は、単純な規則を生産的に適用することにより生み出される。有限の知識により無限の言語表現が可能となる点は、言語の基本特徴である。

(2) 言語の多様性に関する理解：世界では、音声言語にしろ手話言語にしろ、さまざまな言語が話され、使われている。また、地域や集団により異なる方言（言語変種）を持たない言語はないし、場面や相手により使い分けられる表現（スタイル）をもたない言語もない。母語か外国語かを問わず、学ぶ対象となる言語の位置づけを知ることは、言語分野に不可欠の知識である。

(3) 音声を作り出す生理的メカニズム（調音・構音）の理解：多くの言語は音声を媒体とする。人間が作り出す音声の特徴を正確に理解することは、母語の客観的理解に不可欠であるだけでなく、外国語の習得にも絶大な効果がある。

(4) 言語と社会の関係に関する理解：言語活動は、それを使う人々の共同体と密接な関係にあるが（ただし、共同体の存在を前提とするものではない）、それは、言語が社会（集団）を規定するとか、社会（集団）が言語を規定するといった単純なものではない。言語と社会（集団）の複雑な関係を具体的な例を通して理解することは、言語に関する通俗的見方や印象のみに基づく判断に対して、実証的な態度で対応することを可能にする。

[...]

〇個別言語教育を通じて獲得すべき基本的知識

母語（第一言語）についての我々の理解は、思弁的、印象論的になりがちである。膨大な母語の知識・能力を整理して客観的に理解することが極めて難しい上に、そもそも、言語構造を理解していなくても使うことができるため、多くの人が説明の必要を感じていないからである。一方、外国語の習得においては、明確に定義された概念や用語（例えば、音節、主語、時制など）により、言語の構造が示され、説明される必要がある。もちろん、言語で言語を説明し理解することの困難さはあるが、これまで個別言語教育が蓄積してきた、言語理解のための説明の枠組みを学ぶことは、母語を意識的にコントロールし運用するための基礎的な能力となる。

3.2.1　言語・文学分野に固有の能力

〔現実的課題への対処〕

課題や問題は言語に表現されて提示され検討される。言語なしでは思考もコミュニケーションも不可能であることを考えれば、これは当然のことである。しかし他方で、本来言語とは無関係の問題を言語の問題として捉えることにより、却って問題の解決から遠ざかったり、問題の所在を誤解したりすることも起こる。具体的には、問題や課題を検討する代わりに、課題や問題を述べる表現の検討に終始する、複合的な問題にひとつの名称を与えることにより、あたかも単純に解決できる問題のように誤解させる、などである。言語・文学分野が目指すリテラシー教育は、学生が、現実の問題や課題を言語の問題にすり替えたり見誤まったりしない能力を身につけることに貢献できる。

〔職業生活上の意義〕

［...］

　またグローバル化、そして国際化（制度・慣習・言語・文化等を異にする国・地域同士あるいは人間同士がそれぞれのアイデンティティーを保持しながら接触・交流すること）の進展した今日の世界と日本において、国際共通語と外国語の高度の運用能力を要求される職業・業務は飛躍的に増大している。特に、国際化が一部の限られた人々の問題や関心ではなく、社会全体の課題や現実となっている今日、通訳と翻訳は、その必要性が認識されるとともに、より高度な能力が求められている。言語の特性を熟知しリテラシーを身につけた言語・文学の学習者はそこで有用な働きをすることが期待される。

［...］

【注記】

赤字部分が３月７日以降追加した部分です。